

## 5. 評価の充実

**生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。**

(学習指導要領「第3章 特別の教科 道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の4)

### 道徳性の評価ではない

- ※ 道徳性は、人格の全体に関わるものであり、数値などによって不用意に評価してはならない。
- ※ 1時間の道徳科の指導で生徒に道徳性が養われたか否かを評価することは困難である。
- ※ 道徳科の評価は調査書には記載せず、入学者選抜の合否判定に活用することのないようにする。

#### (1) 道徳科の評価のポイント

- 学習活動における生徒の具体的な取組状況を、一定のまとまりの中で、学習活動全体を通して見取る。
- 個々の内容項目ごとではなく、大きくりなまとまりを踏まえた評価とする。
- 他の生徒との比較による相対評価ではなく、生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として記述式で行う。

**観点別評価ではなく、個人内評価として丁寧に見取ることが大切です。**

#### (2) 評価の視点と方法 (例)

評 価 の 視 点	方 法
<p>◆ 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠等を様々な視点から捉え考えようとしている。</li><li>・ 自分と違う立場や考え方や感じ方を理解しようとしている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 記述等から見取る。<ul style="list-style-type: none"><li>・ 発言 (ノート・ワークシート)</li><li>・ 感想文</li><li>・ 質問紙 等</li></ul></li><li>○ 観察等から見取る。<ul style="list-style-type: none"><li>・ 表情や態度</li><li>・ 面接 等</li></ul></li></ul> <p>※ 発言や記述ではない形で表出する生徒の姿に着目することも重要</p>
<p>◆ 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 読み物教材の登場人物を自分自身と重ね合わせて考え、これまでの自分自身の経験やそれに伴う考え方や感じ方を基に考えている。</li><li>・ 道徳的価値を実現することの難しさを自分事として捉え、考えようとしている。</li></ul>	

**生徒の学習の過程や成果などの記録を計画的に蓄積したり、生徒自身のエピソードを累積したりすることが大切です。**

※ 「『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について(報告)」は、文部科学省のホームページよりダウンロードすることができます。

\*キーワード入力による検索の場合

文科省 道徳科 指導と評価

検 索

\*URL入力の場合

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/111/houkoku/1375479.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/111/houkoku/1375479.htm)